



未来創造科（7年生）における実践事例

教育学部附属義務教育学校後期課程 教諭 大谷由香

本校の学校設定科目、未来創造科では、9年間の「自分と地域、職業、世界との関わり」についての体験的な学習を通して、自分が本当に「住みたいまち」とはどのような場所なのかについて考えさせることを目指しています。カリキュラム上、第7学年において生徒に身に付けさせたい能力は「現在の状況や課題が生じている背景を捉える力」（知識及び技能）と、「地域や社会が直面する課題の解決に向けて問いを立てる力」（思考力、判断力、表現力）となっています。このことを踏まえ、令和3年度の第7学年では、生徒たちに複数の異なる地域の公民館の活動を分析・考察させることで「官と地域の協働によって生まれる公共性（新しい公共）」という概念を自らつかみ取らせることをねらいとして取り組みました。

